

# 大阪・関西万博での脱炭素の取り組み

川島 崇利 (かわしま たかとし) 公益社団法人 2025年日本国際博覧会協会 持続可能性局 担当課長

**要約** 2025年日本国際博覧会は、「いのち輝く未来社会のデザイン」をテーマとし、「未来社会の実験場」をコンセプトとして開催しており、環境や社会への影響を適切に管理し、持続可能な万博の運営を目指すとともに、地球環境問題への新たな挑戦の形を世界に示していく。脱炭素について、二つの視点から取り組みを進めており、一つ目は、現在の時点で、先進性、経済性がありつつも採用可能な技術を用いてカーボンニュートラルのための取り組みを行うこと、二つ目は、2050年の脱炭素社会を見据えて開発していくべき先進的な技術や仕組みをお見せし、体験いただくことである。ここでは、それらの取り組みについて紹介する。

## 1. はじめに

2025年日本国際博覧会（大阪・関西万博）は、2025年4月13日に開幕し多くの方にご来場いただいている。「いのち輝く未来社会のデザイン」をテーマとし、「未来社会の実験場」をコンセプトとして、10月13日までの184日間開催する。万博会場の様子を図1に示す。



図1 万博会場

大阪・関西万博は、国連の持続可能な開発目標（SDGs）達成を実現するため、環境や社会への影響を適切に管理し、持続可能な万博の運営を目指すとともに、地球環境問題への新たな挑戦の形を世界に示していく。

大阪・関西万博の事務局である公益社団法人2025年日本国際博覧会協会（以下「博覧会協会」という。）では、持続可能性有識者委員会（委員長：伊藤元重 東京大学名誉教授）を設置し、持続可能性の実現に向けた方策等についてご議論いただき、持続可能な大阪・関西万博の基本的な考え方や姿勢を示す「持続可能な大阪・関西万博開催にむけた方針」を

2022年4月に策定した。同方針は博覧会協会の一人一人を含む、全ての利害関係者（行政団体、サプライヤー、ライセンサー、市民、来場者等）に向けて対外的に示したもので、博覧会協会は同方針に基づき、持続可能な万博運営に向けて行動していく。

持続可能性の取組の中でも、脱炭素と資源循環については、関係者も多く関心も高いため、取組方針と取組状況を「EXPO 2025 グリーンビジョン」として取りまとめている。大阪・関西万博では、脱炭素について、二つの視点から取り組みを進めており、一つ目は、現在の時点で、先進性、経済性がありつつも採用可能な技術を用いてカーボンニュートラルのための取り組みを行うこと、二つ目は、2050年の脱炭素社会を見据えて開発していくべき先進的な技術や仕組みをお見せし、体験いただくことである。ここでは、それらの取り組みについて紹介する。

## 2. 万博開催に伴う GHG 排出量の算定

大阪・関西万博では、先進性、経済性があり、かつ採用可能な技術、仕組みを用いてカーボンニュートラルを目指した取組を行うこととしている。

GHG 排出量の算定においては、参加国・参加事業者など、主催主体である博覧会協会以外の主体も含めて一体の主体とし、算定対象の組織境界としている。上記で設定した組織境界における GHG の直接排出（Scope 1）及び間接排出（Scope 2、3）を対象とするほか、過去の大会イベントでの GHG 排出量算定を参照し、来場者の活動による GHG 排出を間接排出（Scope